

一般社団法人 日本生態学会

2024 年度 第 2 回通常理事会

1. 日時：2024 年 7 月 6 日（土）13:00～17:19
2. 場所：キャンパスプラザ京都第 3 会議室およびオンライン（zoom）
3. 出席者：
 - ・ 理事会構成員（19 名・定足数 10 名以上）
（理事）北島薫、日浦勉、立田晴記、赤坂宗光、辻かおる、久米篤、木村恵、村岡裕由、石濱史子、森章、小林真、東樹宏和、工藤岳、土居秀幸、西廣淳、吉田丈人
 - ・ 監事：黒川紘子
 - ・ オブザーバー：富松裕、永光輝義、高橋一男、和田直也、小泉逸郎、大手信人
 - ・ 事務局：鈴木晶子

4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 16 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い北島薫会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、北島薫会長、黒川紘子監事、議事録作成者は立田晴記専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）

- ・ 資料 1 に基づいて立田専務理事より庶務 7 件、会計 7 件の報告があった。

2. 大会報告（ESJ71 報告、72・73 準備状況）

- ・ 資料 2 に基づいて立田専務理事より ESJ71（横浜）実績について、参加者数（2,452 名）は ESJ70 とほぼ同じ、大会収支は 160 万円ほど赤字になっているが、初のハイブリッド大会で 350 万円程度支出が多くなることを見越した予算立てをしていたとの報告があった。
- ・ 資料 2 に基づいて高橋大会企画委員長より ESJ72（札幌）準備状況について、大会ウェブサイトを開示したこと、シンポジウムの公募を開始したこと、申込サイトとプラットフォーム使用スケジュールを調整していること、ポスター発表はオンライン（必須）とオンサイト（希望者全員）可能、口頭発表はオンサイト発表のみとするとの報告があった。
- ・ ESJ73 準備状況について土居理事（ESJ73 実行委員長）より、現在実行

委員メンバーを編成していること、会場を検討しているが会場費が高く、参加費を上げる可能性があるとの報告があった。会場については引き続き検討していく。

3. Ecological Research 編集委員会報告

- ・ 資料3に基づいて富松編集長より、2023Journal metrics の状況、上半期編集状況、特集の進捗と今後の企画、受賞記念論文出版状況、ER シンポ出版状況、OA 費補助状況、投稿規定検討予定について報告があった。

4. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料4に基づいて永光編集長より、発行状況と編集状況について概ね順調との報告があった。

5. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 北島会長より今年1号の発行が遅れているとの報告があった。

6. 出版状況報告

- ・ 資料5に基づいて久米出版担当理事より、PSB を対象とした科研費研究成果促進費 OA 支援が採択されたこと、アメリカ生態学会にて広報のためブース出展を行うこと、英文3誌表紙デザインについてのアンケート調査を実施したこと、3英文誌の2023Journal Impact Factor の発表、今後の対応方針について報告があった。

7. 各種委員会報告

<自然保護専門委員会>

- ・ 資料6に基づいて自然保護専門委員会の和田副委員長より、「ため池防災特措法に基づく防災事業における提体植生配慮の要望書」提出と記者会見について、上関中間貯蔵施設の要望書案について、再エネ作業部会、知床携帯基地局および太陽光パネル設置工事計画にかかわる意見書について、「(仮称) 新潟関川風力発電事業計画の中止あるいは抜本的な見直しを求める要望書」(案)について、北海道地区会からの意見書・要望書についての報告があった。

<キャリア支援専門委員会>

- ・ 木村理事より女子中高生夏の学校に参加すること、ESJ72(札幌)にて託児の実施とこども生態学講座についても実施を検討していると

の報告があった。

8. EAFES 報告

- ・ 資料 7 に基づいて吉田理事より EAFES11 東京大会を 2025 年 7 月 19 日～21 日に東京大学で開催すること、スケジュール案、想定参加人数、実施体制ほか検討中の事項について報告があった。

9. 日本学術会議報告

- ・ 北島会長より「循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会」が設置されたこと、生態科学分科会の森章理事が委員長として活動していることが報告された。

審議事項

第 1 号議案 ESJ72 について

- ・ 資料 2 に基づいて高橋大会企画委員長より説明があり、大会参加費について一般会員の参加費(早期割引価格)の上限を 2 万円程度とすること、大会日程を 2025 年 3 月 15 日～3 月 18 日の 4 日間にする、自由集會聴講券(「自由集會のみ参加」カテゴリー)を廃止することが全会一致で承認された。

第 2 号議案 委員の承認について

- ・ 資料 2 に基づいて高橋大会企画委員長より委員追加の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 3 に基づいて富松 E R 編集長より委員追加の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 8 に基づいて北島会長より ESJ72 運営検討タスクフォースの委員追加提案があり全会一致で承認された。

第 3 号議案 JaLTER について

- ・ 資料 9 に基づいて村岡理事より日本長期生態学研究ネットワーク JaLTER による国際 LTER 拠出金支払いについて説明があり、今後の支援金について日本生態学会から拠出金の半額を支援すること、半額支援を 2023 年に遡って支出することが全会一致で承認された。
- ・ 資料 9 に基づいて大手信人 JaLTER 情報管理委員長より JaLTER データベースの DIAS への移行について説明があった。この件に関して理事会

審議は行わず、提案の方針でデータベース移行を進める事となった。

第4号議案 旅費規則改訂について

- ・ 資料10に基づいて北島会長より旅費規則の宿泊費上限を10,000円から13,000円に改定することが提案され、全会一致で承認された。

第5号議案 自然保護専門委員会からの審議事項

- ・ 資料11に基づいて自然保護専門委員会の和田副委員長より日本環境会議理事会が提出する「世界自然遺産・知床における携帯電話基地局と太陽光パネルの設置計画の中止を求める」要望書への委員会としての賛同について説明があった。理事会では審議を行わず自然保護専門委員会で賛同手続きを進めることになった。
- ・ 資料11に基づいて和田自然保護専門副委員長より「(仮称)新潟関川風力発電事業計画の中止あるいは抜本的な見直しを求める要望書」について説明があった。理事会では審議を行わず地区会にて要望書を提出することになった。

第6号議案 ER編集部からの審議事項(投稿規定における野生動物への対応について)

- ・ 資料3に基づいて富松編集長より投稿規定における野生生物への対応について説明があり、理事に意見聴取した。野外研究に考慮すべき倫理的課題については、論文出版に当たって編集側としては判断しないという現状に対して、学会としての指針が必要になる可能性が高く、他関連学会でも必要性が提起されている。しかし、このような研究倫理については対応する場がないため、今後の検討課題であるという現状が説明された(審議なし)。

第7号議案 ウェブサイト検討TFの設置について

- ・ 北島会長より現在の学会ウェブサイトが作成してから10年ほど経っており、デザインを一新し見栄え良くするため、ウェブサイト更新を検討するためのタスクフォースを立ち上げ、今年中に方針を決めるスケジュールを進めたいとの提案があり、全会一致で承認された。

その他

- ・ 日浦副会長より生態学会ロゴについても再検討する時に来ているのではないかと提案があった。

- ・ 日浦副会長より大会について今後もハイブリッド大会を行うのか、今後の在り方など長期的な運営についても検討が必要なのではないかと提案があった。

閉会：以上の議事を終え、17時19分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2024年7月6日

会 長 ： 北 島 薫 ⑩

監 事 ： 黒 川 紘 子 ⑩